

大岡 頼光

中京大学現代社会学部 准教授

長寿社会を支える若者の進路保障の研究——脱家族主義をスウェーデンの教育政策に探る

長寿社会を支え続けるには、有能な若者に家庭の貧富を問わず進路を保障し、能力を發揮してもらう必要がある。家族に頼らなくてよい教育費負担制度のヒントをスウェーデンに探った。

高等教育は裕福な者に多く消費されるから、低所得者を含む一般納税者の税金で高等教育を賄うのは逆進的になる。スウェーデンは授業料が無料の上に公費から給付奨学金を与えた。子の親からの経済的独立を、逆進性の問題より優先した。給付奨学金の充実だけでは、貧困家庭の子弟が大学進学を望むようにはならず、高等教育の公的負担の逆進性は残り続けた。

現状の日本で全員に授業料を無償化し給付奨学金を与えるのは逆進的になる。資力調査をし、一定収入以下の大学生に限るべきである。

逆進性を無くすことは、高等教育のみに注目したのでは難しい。就学前教育から公的教育的教育を充実して、貧困層からも大学進学希望が高まるようにし、高等教育の逆進性の問題の解決をまず図るべきだ。